

RAZOR BLADE SUPPORT HEAD

Patent Number: JP4361783

Publication date: 1992-12-15

Inventor(s): SAITO TATSUYA

Applicant(s): KAIJIRUSHI HAMONO KAIHATSU CENTER:KK

Requested Patent: JP4361783

Application Number: JP19910136788 19910607

Priority Number(s):

IPC Classification: B26B21/22

EC Classification:

Equivalents: JP2659629B2

Abstract

PURPOSE: To reduce the danger of the skin being cut so as to enhance safety by providing a number of blade holes integrally in a blade plate, and forming along the inner line of each blade hole a rectilinear edge extending parallel to the direction of extension of each guard and rectilinearly-extending edges each of which is tilted by an acute angle.

CONSTITUTION: A blade plate 4 is integrally molded and has a number of isosceles-triangle-shaped edge holes 11 provided in parallel at the center portion thereof. A blade is attached to the whole inner edge of each blade hole 11 and three rectilinearly extending blade edges 12, 13, 14 form isosceles triangles in succession. The blade edge 12 is extended in the parallel direction to that of extension of each guard 9 of a top plate 3 and the blade edges 13, 14 are each tilted by an acute angle relative to the direction of extension of each guard 9. The angle of the tilting is preferably not more than 45 degrees. The blade plate 4 is placed on the blade rest 2 and the supporting protrusions 10 of the top plate 3 are inserted in support holes 6, 15 so that the blade plate 4 is sandwiched between the blade rest 2 and the top plate 3. Each of the blade holes 11 of the blade plate 2 is exposed between the front and rear and right and left frames 3a-3d of the top plate 3 and connects both of the front and rear guards 9 of the top plate 3 to form a shaving face.

Data supplied from the esp@cenet database - 12

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平4-361783

(43)公開日 平成4年(1992)12月15日

(51)Int.Cl.⁵

B 26 B 21/22

識別記号

庁内整理番号

9029-3C

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全5頁)

(21)出願番号 特願平3-136788

(22)出願日 平成3年(1991)6月7日

(71)出願人 000001454

株式会社貝印刃物開発センター
岐阜県関市小屋名1110番地

(72)発明者 斎藤 達也

岐阜県関市小屋名1110番地 株式会社貝印
刃物開発センター内

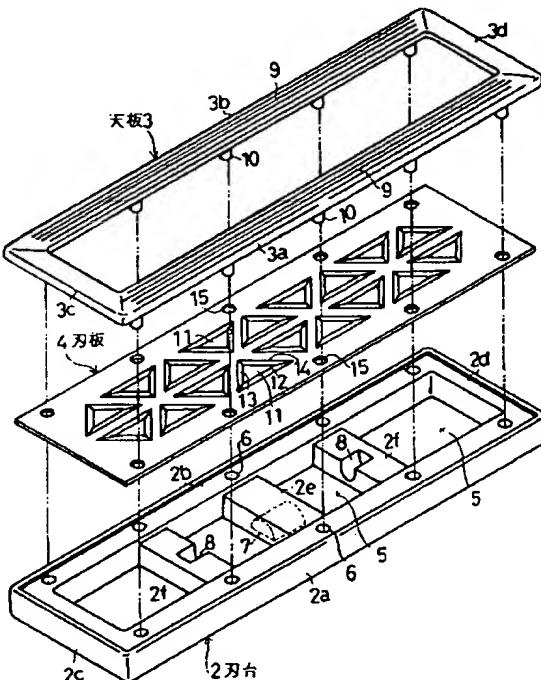
(74)代理人 弁理士 恩田 博宣

(54)【発明の名称】 剃刀の刃支持ヘッド

(57)【要約】

【構成】 ガード9を有する支持体に組み込まれた刃板4に多数の刃孔11が一体に設けられ、この刃孔11とガード9とを結んでひげ剃り面になっている。各刃孔11の内縁にはガード9の延設方向に対し平行に延びる直線状の第一刃先12と、ガード9の延設方向に対し鋭角だけ傾斜して延びる直線状の第二刃先13、14のみが形成されている。

【効果】 刀孔11にはガード9に対し直交する方向へ延設された刃先が存在しないので、ガード9及び各刃孔11を肌に当たって使用する時、刃支持ヘッドをガード9に対し直交する方向へ移動させても、肌を切るおそれは少なくなって安全性が向上する。



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ガード(9)を有する支持体(1)に組み込まれた刃板(4)に多数の刃孔(11)を一体に設けてこの刃孔(11)とガード(9)とを結んでひげ剃り面(P)とした剃刀の刃支持ヘッドにおいて、前記各刃孔(11)の内縁にはガード(9)の延設方向(Q)に対し平行に延びる直線状の第一刃先(12)と、ガード(9)の延設方向(Q)に対し鋭角(θ)だけ傾斜して延びる直線状の第二刃先(13, 14)のうち、この両方の刃先(12, 13, 14)のみを形成するか、又は第二刃先(13, 14)のみを形成したことを特徴とする剃刀の刃支持ヘッド。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は支持体に組み込んだ刃板に多数の刃孔を一体に設けてその刃孔の内縁に刃先を形成した剃刀の刃支持ヘッドに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 このような剃刀の刃支持ヘッドにおいては、例えば特公昭57-500631号公報や特公平2-501891号公報に示すように、刃孔がほぼ梢円形に近い形状又は円形状になっていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、このような形状では、刃孔と結んでひげ剃り面を形成するガードの延設方向に対し直交する刃先が、刃孔の内縁に形成した刃先の一部に必ず存在するため、ガード及び刃板に肌に当たって使用する時、刃支持ヘッドをガードに対し直交する方向へ移動させると、刃板の各刃孔の刃先のうちガードの延設方向に直交する部分により、肌を切る危険があった。

【0004】 本発明は刃孔の形状を改良して安全性を向上させることを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】 この目的に鑑み本発明にかかる剃刀の刃支持ヘッドにおいては、後記する各実施例の図面に示すように、ガード9を有する支持体1に組み込まれた刃板4に多数の刃孔11が一体に設けられ、この刃孔11とガード9とを結んでひげ剃り面Pになっている。第1実施例の図面(図1～図4)又は第3実施例の図面(図9～図12)に示すように、各刃孔11の内縁にはガード9の延設方向Qに対し平行に延びる直線状の第一刃先12と、ガード9の延設方向Qに対し鋭角 θ だけ傾斜して延びる直線状の第二刃先13, 14のみが形成されている。又、第2実施例の図面(図5～図8)に示すように、各刃孔11の内縁には前記第二刃先13, 14のみが形成されている。

【0006】

【作用】 このように刃孔11にはガード9に対し直交する方向へ延設された刃先が存在しないので、ガード9及

10

20

30

40

50

び各刃孔11を肌に当たって使用する時、刃支持ヘッドをガード9に対し直交する方向へ移動させても、肌を切るおそれは少なくなる。

【0007】

【第1実施例】 まず、本発明の第1実施例にかかる剃刀の刃支持ヘッドを図1～図4を参照して説明する。刃支持ヘッドは互いに分離した刃台2と天板3とからなる支持体1と、それらの間に挿着された刃板4とからなる。

【0008】 刃台2は前後左右各枠2a, 2b, 2c, 2dを有し、前後両枠2a, 2b間の中央部及びその両側に仕切枠2e, 2fが架設され、各枠2a, 2b, 2c, 2d, 2e, 2f間にひげかす排除孔5が形成されている。前後両枠2a, 2b上には複数の支持孔6が並設されている。各仕切枠2e, 2fに形成された凹部7, 8はホルダ(図示せず)に対し支持するためのものである。

【0009】 天板3は前後左右各枠3a, 3b, 3c, 3dからなり、前後両枠3a, 3b上にガード9が形成されている。前後両枠2a, 2bの下側には複数の支持突起10が並設されている。刃板4は一体成形され、周縁を除く刃板4の中央部には二等辺三角形状をなす多数の刃孔11が並設されている。この刃孔11は内縁全体で刃付けされ、直線状に延びる3個の刃先12, 13, 14が連続して二等辺三角形をなしている。多数の刃孔11の各刃先12, 13, 14のうち、一つの刃先12は天板3のガード9の延設方向Qに対し平行な方向へ延設されている。他の二つ刃先13, 14はこのガード9の延設方向Qに対し鋭角 θ だけ傾斜している。この傾斜角度 θ は45度以下であることが好ましい。刃板4の前後両縁部には多数の支持孔15が並設されている。

【0010】 この刃板4は刃台2上に載せられ、それらの各支持孔6, 15に天板3の各支持突起10が挿着されて刃板4が刃台2と天板3との間に挿着されている。刃板2の各刃孔11は天板3の前後左右各枠3a, 3b, 3c, 3d間に露出し、天板3の前後両ガード9と各刃孔11とを結んでひげ剃り面Pになっている。特に、本実施例において各刃孔11にはガード9の延設方向Qに対し平行に延設された刃先12と、ガード9の延設方向Qに対し鋭角 θ だけ傾斜して延設された刃先13, 14のみを有し、ガード9に対し直交する方向へ延設された刃先は存在しないので、両ガード9及び各刃孔11を肌に当たって使用する時、刃支持ヘッドをガード9に対し直交する方向へ移動させても、肌を切るおそれは少くなり、従来技術のものよりも安全性が向上する。

【0011】

【第2実施例】 次に、図5～図8に示す第2実施例を前記第1実施例との相違点を中心に説明する。刃板4の各刃孔11は菱形状になっている。この刃孔11は内縁全体で刃付けされ、直線状をなす4個の刃先13, 14が

連続して菱形状になっている。相対向する一对の刃先13とそれに隣接して相対向する一对の刃先14とはガード9の延設方向Qに対し鋭角θだけ傾斜して延設されている。この刃孔11にはガード9の延設方向Qに対し直交して延びる刃先が存在しないことはもちろん、第1実施例の刃先12のようにガード9の延設方向Qに対し平行なものも形成されていない。

【0012】

【第3実施例】次に、図9～図12に示す第3実施例を前記第1実施例との相違点を中心に説明する。刃板4の各刃孔11は五角形状になっている。この刃孔11は内縁のうち相対向するわずかな内縁部16を残して刃付けされ、直線状をなす3個の刃先12、13、14が形成されている。一つの刃先12はガード9の延設方向Qに対し平行な方向へ延設されている。この刃先12に対し両内縁部16を境にして相対向する一对の刃先13、14は互いに連続してく形状をなし、ガード9の延設方向Qに対し鋭角θだけ傾斜して延設されている。この各刃孔11にはガード9の延設方向Qに対し直交する一对の内縁部16は形成されているが、この両内縁部16には刃先が何ら形成されていないため、使用時にこの両内縁部16により肌を傷付けるおそれは全くない。

【0013】

【発明の効果】本発明にかかる剃刀の刃支持ヘッドによれば、その刃板4の各刃孔11の内縁に形成した刃先1

2、13、14により肌を切るおそれが少なくなって安全性が向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施例にかかる剃刀の刃支持ヘッドを示す分解斜視図である。

【図2】同じく組立斜視図である。

【図3】図2のX-X線拡大断面図である。

【図4】第1実施例の刃板のみを示す部分拡大平面図である。

【図5】第2実施例にかかる剃刀の刃支持ヘッドを示す分解斜視図である。

【図6】同じく組立斜視図である。

【図7】図6のY-Y線拡大断面図である。

【図8】第2実施例の刃板のみを示す部分拡大平面図である。

【図9】第3実施例にかかる剃刀の刃支持ヘッドを示す分解斜視図である。

【図10】同じく組立斜視図である。

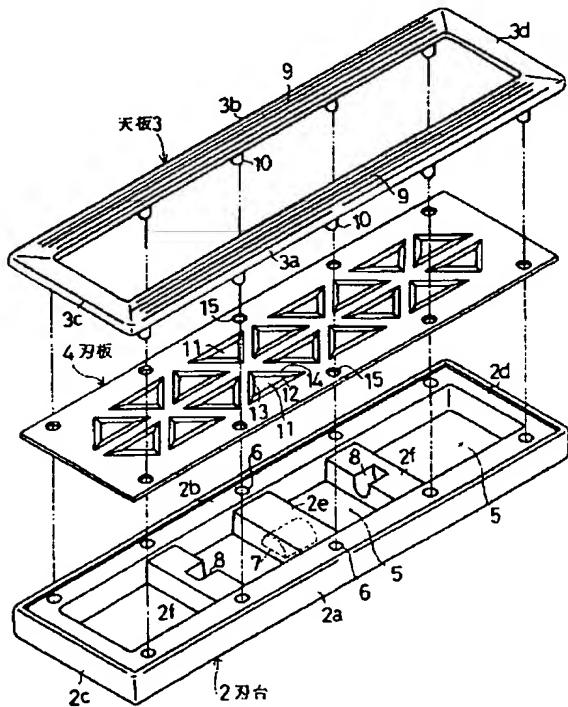
【図11】図10のZ-Z線拡大断面図である。

【図12】第3実施例の刃板のみを示す部分拡大平面図である。

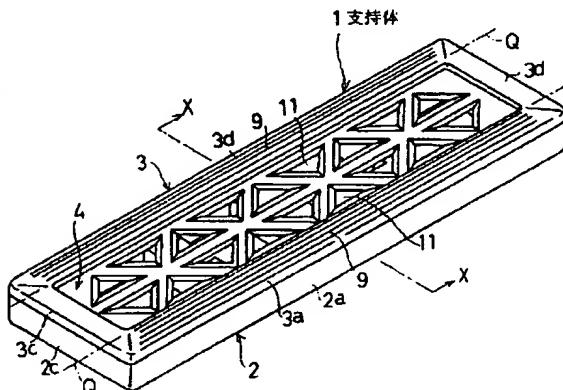
【符号の説明】

1 支持体、2 刃台、3 天板、4 刀板、9 ガード、11 刀孔、12 刃先、13 刃先、14 刃先、P ひげ剃り面、Q ガード延設方向

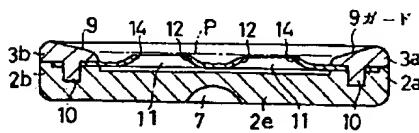
【図1】



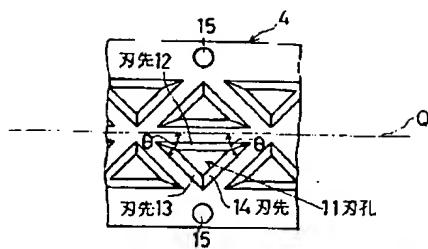
【図2】



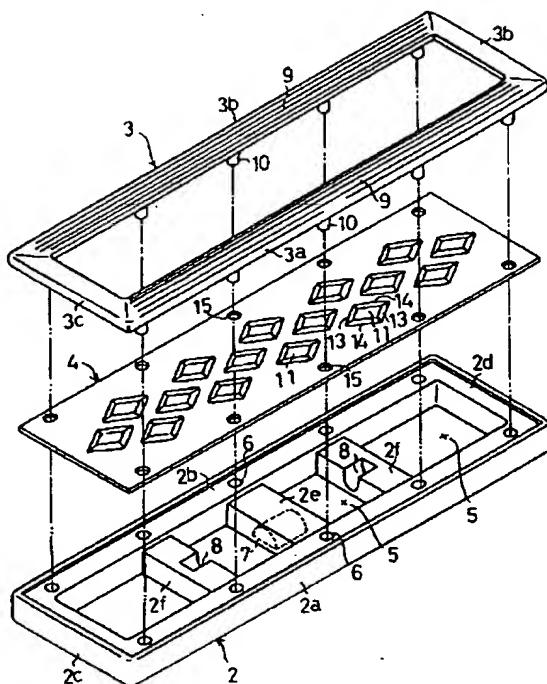
【図3】



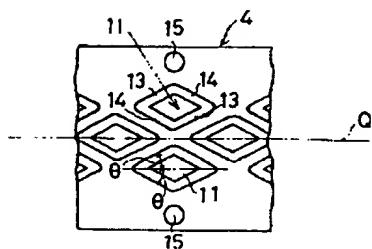
[图 4]



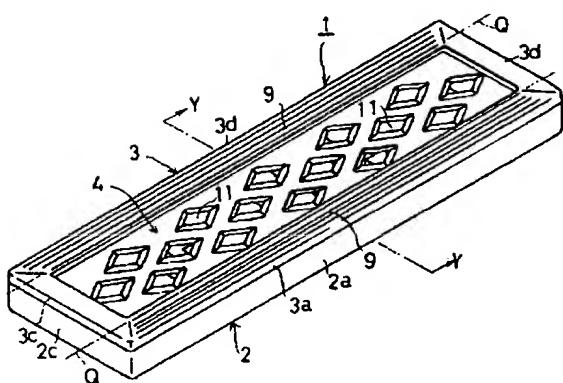
[图5]



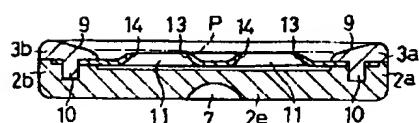
【图8】



【四六】

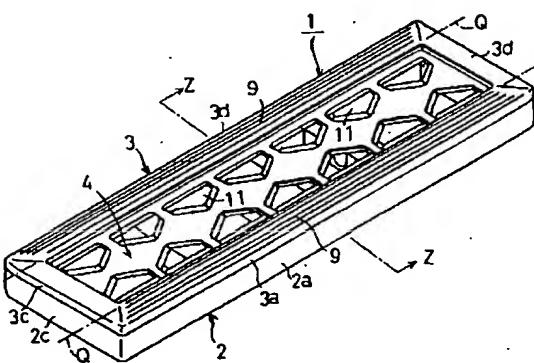
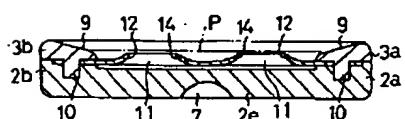


[7]

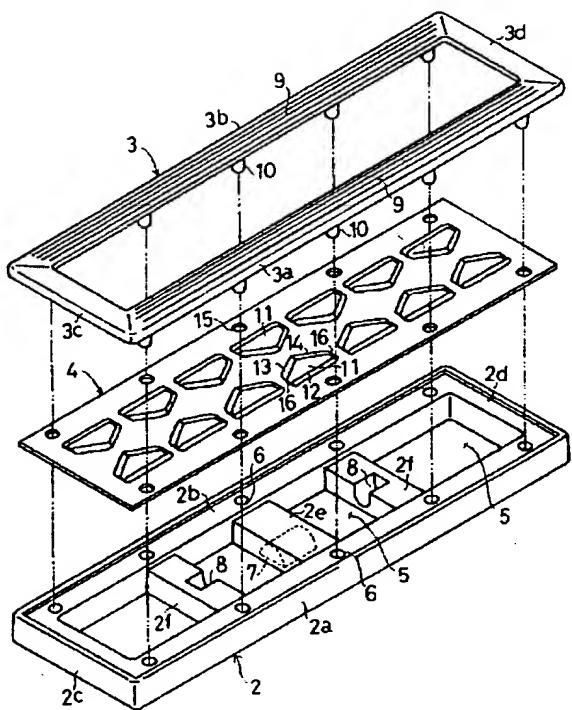


【图10】

[図11]



【図9】



【図12】

